



新しいワークフローを使いこなす 職人の技と心

株式会社サンエムカラーは、特殊技術を要する絵画や古文書の複製（レプリカ）など高品位の印刷物を得意とする。また、京都という地の利を生かした伝統工芸品（掛け軸・額装・ミニ屏風など）や、最新のデジタル技術を駆使した写真集・図録・大判ポスターなどにも意欲的に取り組む。2014年春にはEQUIOSを導入して短納期対応を図ったほか、人員の配置転換による作業効率の向上とコスト削減、製版・印刷の100%内製化を実現させた。



相談役
松井 勝美 氏



代表取締役社長
松井 一泰 氏



CDC事業部 本部長
村田 直樹 氏



CDC事業部
クロスメディア課
増田 悦久 氏

芸術的職人技を極める

サンエムカラーは、松井勝美相談役が1985年に立ち上げた。創立スタート時は、朝早くから夜遅くまで、手作業ばかりの業務に明け暮れた。それでも「働く喜びは以前にも増して大きくなり、お客さまに対する感謝の気持ちもいっそう強くなりました。それは、印刷という仕事は夢と希望を持って取り組める職業だからです」と松井相談役は快活に持論を展開する。

お客さまに満足してもらえる喜びを支えに、どんな苦勞もいとわず、弱音を吐かず、

絶えず自らの心にビジョンを掲げ、それを達成していこうと努力を重ねてきた。こうして高度な技術力を身に付けていき、書家、画家、写真家など、印刷物の細部にまでこだわるクライアントから直に仕事の依頼を受けるまでになった。

現在は最新鋭の印刷関連設備を導入し、品質のさらなる向上と作業のスピード化を進めているが、松井相談役は「技術がいかに進歩しようとも、印刷表現の根幹はあくまで“人”であり“職人の心”です」と、高い志を持った職人の育成を最優先する。クライアントに心底納得してもらえる印刷製品を提供するのは、彼らが優れ

た道具を使いこなして初めて可能になるからだという。現に、こうしてサンエムカラーは「造本装幀コンクール」「全国カレンダー展」などで数々の賞を獲得するまでの実力を付けた。

2014年4月にはEQUIOSを導入した。これもエンドユーザーの要求に100%応えられる精緻な再現力を求めたからである。

これまで培った技術力と、その技術が最大限に生かせる設備を使って他社にまねのできない印刷物をつくり、新しい事業領域を確立する。これにより、サンエムカラーは厳しい企業間競争を勝ち残っていく覚悟だ。



役割を終えてからも 「捨てられない」印刷物づくり

ワークフローや印刷環境面の現状、経営課題を松井一泰社長に尋ねた。

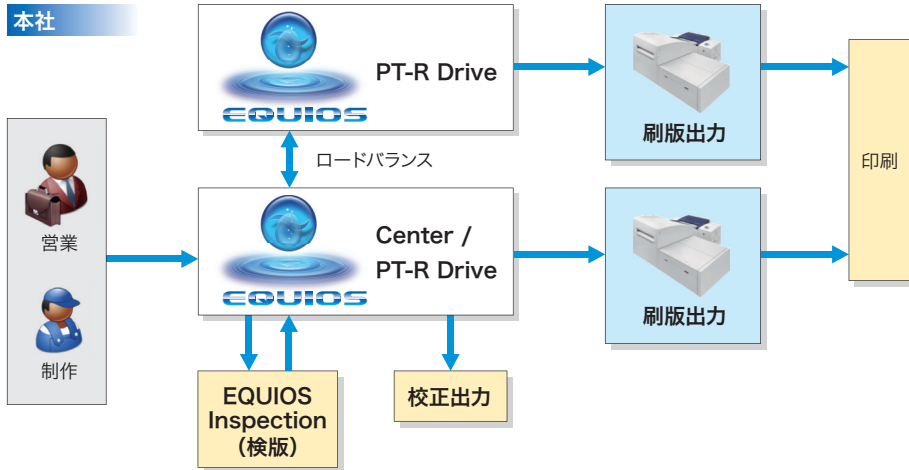
「印刷会社において、品質・生産性の向上と効率改善は常時取り組むべき課題です。当社の場合は、そのために新しいソフトウェアを次々に導入したのでワークフローが分散化し、作業負担が大きくなってきました。それと同時に社内コストも増加。一方では、外部に委託せざるを得ない仕事も少なくありませんでした」

これらの課題を解決するため新しい統合ワークフローを構築することになり、ベンダー各社のさまざまなワークフローを比較検討した結果、EQUIOSを導入することになった。松井社長は「2003年にTrueflowとPT-Rを同時に導入したときもスムーズに立ち上げられたこと、EQUIOSはページやサイズ違いのデータを処理できる面付け機能や優れた検版機能、ファンアウト機能など、Trueflowの使い勝手や品質を継承しながら自動化・省力化を図ることができる点などが決め手になった」という。

「Trueflowの資産が継承できることはもちろん、SCREENのサポート面での実績が大きかったですね。さらに、われわれはカレンダーやチラシがその役割を終えても切り取って残してもらえような、“捨てられない印刷物”を社会に提供することを目指しています。4,000dpi / 1,000線相当のFairdot (AM/FMハイブリッドスクリーニング) にて表現力豊かで高品位な印刷物づくりに最適なEQUIOSこそ、われわれの夢を実現できるソフトウェアだと判断しました」(松井社長)

EQUIOSの立ち上げに際しては、Trueflowのオペレーターとは別のメンバーを担当者に任命することで、従来の常識にとらわれない独自フローの構築を進めていった。

実稼働に入り、オペレーターの習熟度が上がってからは、当初の目標どおり2割程度のコスト削減と製版の100%内製化が達成でき、“捨てられない印刷物”づく



りが一段と進んだ。同社では東京の出版社やクリエイター、全国の美術館との直取引も多い。その多くは夜中にデータを受け取り、朝には印刷・発送しなければならない仕事だが、EQUIOSを活用するようになってからは、そんな短納期の仕事にも十分対応できるようになった。

自動化・省力化で 残業時間は半減

EQUIOSの導入効果について、現場を取り仕切るCDC事業部の村田直樹本部長は「われわれにとっては、自動化・省力化による生産性の向上が最大の目標でした。ハードウェアを強化したことで処理スピードが上がり、また社内で仕事の流し方を変えたということもあって、EQUIOSを使うようになってから生産性は間違いなく上がりました。同じ勤務時間、売上高で換算した場合、残業時間はほぼ半減しています。特に面付け作業の工数が削減できたことで、結果的に2割ぐらいの人員を削減した分、配置転換による人材の効率化が図れたのは大きな成果です」と話す。

同社では現在、FileMakerを使って進捗管理を行っている。

「将来的には、FileMakerから受注情報をEQUIOSのジョブとして取り込み、仕事のさらなる効率化を図りたいと思っています。今はまだテスト中ですが、EQUIOSに大きな期待を寄せています」(増田氏)。

このように、同社では松井相談役が強調する「夢のある会社」づくりを永遠に追求していこうと、間断なく研究し、努力を重ねながら知識を広げ、スキルアップを図ってきた。

松井相談役は、「仕事を発注して下さる方々の要望は数値では計測不可能な、いわば“空気感のある印刷”です。これに応えるには情熱が必要です。そして社員みんながコミュニケーションを深め、知識を提供し合うことで新たなノウハウを生み出し、素晴らしい作品を提供することです。これは楽しいことであり、そのためには努力が必要です。私がこの仕事を始めてから60年、当社が創業して30年になりますが、いまだにこの仕事が面白くてなりません。これからもアナログとデジタルを融合させながら一般の印刷物とは一味違う商品を作り上げ、エンドユーザーの皆さん方にさらに愛され、信頼される会社を目指したいと思っています」と締めくくった。



株式会社サンエムカラー

住 所 京都市南区吉祥院嶋嵯山町37
代 表 者 代表取締役社長 松井 一泰
設 立 1985年
従業員数 120人

SCREEN

株式会社メディアテクノロジー ジャパン

〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1 ヤマトナズ川11号館
<http://www.mtjn.co.jp/>

東京支店 / 03(5621)8266(代) 大阪支店 / 06(6268)6600(代) 名古屋支店 / 052(218)6400(代)
福岡支店 / 092(436)7081(代) 北海道営業所 / 011(726)0707(代) 東北営業所 / 022(224)1741(代)
新潟営業所 / 025(241)0112(代) 静岡営業所 / 054(281)0955(代) 長野営業所 / 026(224)5770(代)
金沢営業所 / 076(292)2345(代) 京都営業所 / 075(326)1350(代) 中国営業所 / 082(264)6451(代)
四国営業所 / 087(837)8151(代)

株式会社 SCREEN グラフィックアンドプレジジョンソリューションズ

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目
<http://www.screen.co.jp/gp>

※本カタログは、弊社のFairdot 2で印刷しています。
※本カタログは、弊社の千都フォントを使用しています。
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。
※本カタログの仕様ならびに商品デザインは改良のため予告なしに変更されることがあります。
※本カタログに掲載している商品は、日本国内仕様です。